

かわさき教育プラン中間報告検討素案に対する主なご意見

プラン全体を通して

- ・ 教育プランができるということは、地域、学校にとって、大きな目安となる。
- ・ 市民、教師に読んでもらえるよう、文章は分かりやすくしたほうがいい。
- ・ 教育と文化という視点が大事だ。市民が生活の中で生きた力を培っていくための文化の力ということ、もう少し書いてほしい。
- ・ 改革内容など整理されてはいるが、現在の教育が抱える課題が多すぎて大きすぎるので、視点が羅列的になりがち。理想的にもう少しまとめると分かりやすい。
- ・ ~性、~的という表現が多い。内容が具体的に示せるものは、示したほうがいい。
- ・ どの施策も、その結果が子どものためになるのだ、ということが分かるように。

目標について

- ・ 改善案として例えば
 - 学習や文化やスポーツを通して、自分をみがき共に学び高め合う「市民づくり」をめざす。
 - 豊かな学習の場とネットワーク化を図り、子どもからおとしよりまで心をつなぎ、生きがいのある「地域づくり」をめざす。
- ・ 「教育を提供する」という文言に違和感を覚える。

イメージ図(案)について

- ・ 社会情勢の枠に「少子、高齢化の視点」「国 地方 地域(区)への分権の視点」を考えられないか
- ・ 行財政改革の枠に「右肩上りの経済社会の終焉」「サステナブル(持続可能又は維持可能な)社会への構造改革」
- ・ 教育行政の部分で校長のリーダーシップが強調され過ぎではないか。管理職登用のあり方、若手抜てきなど課題解決とのセットでないと議論を呼ぶ。
- ・ 社会教育の部分で「社会教育としての自助、共助、公助の概念とシステムの構築」
- ・ 他行政(文化、青少年、婦人、人権)とのネットワーク及び統一をどうとらえ、どう表現するか。

各部会重点施策整理について

全体を通して

- ・ 表現の不統一が気になりました。行政部会は、「改革の視点」として、比較的具体的な内容を書いています。学校教育部会は、「願って」、「めざして」のような表現になっています。社会教育部会では、具体的な表現と「新たな社会教育施策の展開」のように内容は細目に書いてある場合があります。この辺の書きぶりを統一した方がいいと思います。
- ・ 重点施策は、個々の話を出すのではなく、全体を統合するような発想で。

かわさき教育プラン中間報告検討素案に対する主なご意見

- ・ 「上記の方針に従い～」の記述と、「(1)改革の視点」の表題名との整合は？

教育行政

- ・ 「県費負担教職員改革による政令市への権限移譲」に対応した内容を行政部会で書きたいと思います。たとえば、教職員定数の見直し、学級編成基準の見直しなどです
- ・ 教育委員会及び事務局の改革についても触れたいと思います。たとえば、組織のスリム化と学校・保護者への支援体制の整備など、です。
- ・ 社会教育行政についても触れたいと思います。「市民社会の成熟化」と書いている点に関連して、市民の自主的、自律的な文化、スポーツ等の活動を支援する、など。
- ・ 「特色ある学校づくり、特色ある教育課程の編成」
削除、あるいは「特色ある教育活動、学校づくりのための支援」
- ・ 進学重点校、この表現は何を指すのか理解できない。本当に重点校とそうでない学校を区別化できるのか。(削除を)
- ・ 教育行政の一般行政からの独立の視点、及び独自財源等の考慮は必要ないか。

学校教育

- ・ <子ども達の確かな成長を願って>の部分で
 - ・ 家庭や地域の教育力・・・
家庭教育の一層の充実をはかり、地域の教育力の・・・
 - ・ 習熟度別学習などの・・・
個性重視の教育をめざし、ひとりひとりの子どもに応じたきめ細かな指導を展開する
- ・ <特色ある学校づくりをめざして>の部分で
 - ・ 教職員を雑務から解放する
教職員が本務に集中できるよう改善を図る
 - ・ 教職員の雑務とは何か。意識改革が必要ではないのか。
 - ・ 校舎の新築時に意見交換をするとなっているが、意味が不明。

社会教育

- ・ 権利(学習権)の位置付けが不明確。

かわさき教育プラン中間報告検討素案に対する主なご意見

教育行政改革重点施策(案)について

(1) 改革の視点

- ・ 多様化する市民のニーズの表現だけでよいのか。社会状況が大きく変化している。

(2) 改革の方向性

多様性、選択性の導入

- ・ 川崎市から各学校は短絡すぎないか。区(地域)をきちんととらえるべきと思う。

自律性の尊重と公共性、公益性の確保(学校評価)

- ・ この部分で指摘すべきかわかりませんが、評価は各学校だけでなく、研修制度と頻繁に実施されている様々な教育研究についても評価していく必要があると思われる。たぶん、学校評価には研修受講率や教育研究の実施なども視野に入っているのではないかと想像します。その際、各学校がどのような研修や研究の実態かわかるだけでなく、川崎市全体として研修や研究の実態がどのような状況にあるのか見えることが必要になってくると思われます。

協働性と専門性の推進

- ・ 拡大教育委員会は参加のシステムが決定のシステムがあいまいである。
- ・ 協働性について各組織の新たな関係構築を提案していますが、現在との関係がわかりにくいので、現在の関係図から目指している組織関係のイメージ図を報告書には示した方がわかりやすい資料になると思われます。イメージ図には、教育委員会、社会教育担当部署、学校教育担当部署、区単位地域教育会議、区民館、中学校区単位地域教育会議、学校教育推進会議、各学校のほか、新たに提案している「拡大教育委員会」も加えそれぞれの関係を示す必要があると思います。

柔軟性と民間活力の導入

- ・ 迅速と柔軟性の関係が不明確
- ・ 寄付金.....安易すぎないか
- ・ 民間活力.....学校の複合化との関連も必要

学校教育改革重点施策(案)について

(0) 全体的な事項

- ・ 学校教育の話で目立つのは多様性・選択性の話ぐらいで、あとは常識的なことが並んでいる。学校教育とはそういうものかもしれない・・・
- ・ 教育行政改革で出ている学校選択制は反対。学校選択、学校評価、どちらも何故学校教育専門部会で話が出てこないのか。

かわさき教育プラン中間報告検討素案に対する主なご意見

- ・ 新たな視点の提案として
家庭の教育力の向上（回復）、環境、福祉、体験学習、音楽、読書、まちづくり、情報化
- ・ 全体的に文言が未熟である。

(1) 改革の視点

(2) 改革の方向性

【1】子どもたちの確かな成長を願って

いのちの教育、夢をはぐくむこころの教育を推進します。

- ・ 「～の確かな成長を願って」
「健やかな成長」
- ・ 家庭や地域の教育力・・・
家庭教育の一層の充実をはかり、地域の教育力の・・・
- ・ 「すべての子どもたちに学習が受けられるような支援体制・・・」
すべての子ども達が、豊かな心を持ち健康で夢を実現できるような支援体制・・・
- ・ 「いのちの教育、夢をはぐくむこころの教育」とは何をあらわしているのかわかりにくい。また、この項目中の記述と一致した表題にしたいが全体的に何がしたいのか文章がわかりにくい。

例えば、「子どもの人権を尊重した施策を推進」とあるが、子どもの人権を尊重した施策と「いのちの教育、夢をはぐくむこころの教育」の関係がよくわからない。表題との関係がわかるような書き方にしたいと思います。

また、この項目中で方向性として大切だと思いましたが、「子どもの権利条例に則し、全ての子どもたちが安心して学習を受けられる教育環境を保障すること」です。いじめ・体罰・学級崩壊など教育現場が抱える課題は、その当事者だけでなく教育環境を共有する全ての児童・生徒の安心して学習を受けられる権利を脅かしていることになると考えられます。学校教育は常にそのような状況が減少するよう努めることが大切かと思われます。しかしながら、これも、表題との関係が読み取れません。

子どもが生涯にわたって健やかに生き抜く教育に取り組みます。

- ・ 全体的にわかりづらい。
- ・ 内容に「心の形成期にある子どもを、支援・指導できる協働体制をつくり、教師が子どもと主体的に関わりあえることを大事」とあるので、「生涯にわたって健やかに生き抜く教育」とはこころの教育のことなのでしょうか？現在の表現では「健やかに生き抜く教育」とは健康な身体をつくることなのか、精神的に健康であることを意味しているのか不明確です。何を意味しているのか具体的にわかるような表題にしたいと思います。そうすることによって以降に続く、「教職員に対する専門家の

かわさき教育プラン中間報告検討素案に対する主なご意見

相談・支援体制」や 「一人一人の子どもたちに目が行き届くよう、指導できるシステムづくりや特別支援教育への取り組み、学校教育と社会教育が一層連携をした支援体制づくりなど強化」がどのようなことを指しているのか初めて理解することが出来ます。

より良い社会を創り出していく「確かな学力」の育成をめざします。

- ・ 習熟度別学習などの・・・
個性重視の教育をめざし、ひとりひとりの子どもに応じたきめ細かな指導を展開する
- ・ 「今後は、学力低下を問題とするのではなく、「確かな学力」をつめることを・・・」
下線部削除
- ・ 「この「確かな学力」をどのように評価していくのかを、保護者や市民の方々と考えていくことで、有効な施策を進めて」とありますが、誰が、「確かな学力」の評価を主体的に考えていくのが示されていません（この文章には主語がありません）。新しい学習指導要領で示されている「生きる力」は意欲や態度などもあり評価が難しいとも言われています。いったい誰がこの難しい課題に主体的に取り組んでいくのか示す必要があると思います。

また「今後は、学力低下を問題にするのではなく」とありますが、たぶんこれは私の発言がもとで挿入された語ではないかと想像されます。私の説明が悪く多少誤解が生じている感がありますので、少し説明しておきます。私がこのように申し上げた意図は、現在の児童・生徒の学力の状態をできるだけ正確に把握しその評価をもとにより着実な学力の育成ができることが望ましいという意味で発言しました。漠然とした感覚や異なる学力観の下で学力低下を論じるよりも、より確かな状況把握の下に学力のことを考えたいという意味の発言であって、決して学力低下が問題ないと思っているわけではありません。

【2】特色ある学校づくりをめざして

川崎という地域に深く根ざした、特色ある教育活動の編成と展開をめざします。

- ・ 校長のリーダーシップ、雑務について（【2】 も同じ）
校長・教員の実力と人事改革（若手登用、自己評価、研修等、内部人材の活用制度をどうするか）（【3】 だけでは不十分）
- ・ 特色ある学校づくりでは、特色ある学校をつくるのが目的ではなく、学校の自主・自律性を尊重していくと結果として各学校が異なる特色を持ってくるだろうと言うことだと思います。では、なぜ各学校の自主・自律性を尊重する必要があるのでしょうか？何を実現したいために自主・自律性を尊重するのでしょうか。特色ある学校を創るためではないと思います。特色ある学校は単なる結果であって、目指すべきゴールではないと思います。ここで、目指しているゴールは、「保護者や地域

かわさき教育プラン中間報告検討素案に対する主なご意見

の方々からの要望や地域特性」をいかに的確に学校経営に反映していくかということではないでしょうか。ここでの説明ではそのことが明確にわかるような記述にしたほうが良いと思います。

「外部の人材の活用、豊かな体験活動」などはそれらの要望を実現する方法論の一つではないかと思われます。つまり、要望の内容によっては必要ないこともあるものではないでしょうか。別項目として、地域と連携をとる学校運営や学校教育の方法について活用できる人材から方法まで柔軟に対応できるような方向性を求めていると言えるので、この項とは別にした方がよいと思われる。

一方、「学校プランの発信など、保護者や地域の人々との意図的・計画的な連携を図って」とありますが、こちらは地域に深く根ざした教いく活動を展開するために必要なことだと思われます。

これらのことを整理して記述した方がよりわかりやすい報告になるとと思われます。

幼稚園から中学校までの12年間の子どもの成長を見通した教育活動の展開をめざします。

- ・ 全体的にわかりにくい。

国際化・情報化に対応した教育を一層推進します。

- ・ 「広く世界の人たちと、語り語られる関係を・・・」
 広く世界の人たちと、語り合える関係を・・・
- ・ 「英語活動」という言葉がわかりにくい。「英語活動」は英語教育や英語学習を意味する言葉ではないのですが、一般的には英語教育と混同しやすい言葉です。「英語活動」とは、異文化世界とコミュニケーションをとる最も一般的な言語（コミュニケーションツール）として英語を使った活動をしているということだと思われますが、保護者の間でも誤解が多い用語ですので使用には注意が必要かと思われます。

また、国際化・情報化に対応した教育が必要なのは理解できますが、改革として得に強調しなくともこうした方向性は周知の事実のように思えます。そこで、ここで、改革の方向性としてさらに示すからには、川崎市が抱えている国際化や情報化における特有の課題解決と関連した方向性を示すことが必要だと思えます。

創意工夫を発揮できる学校づくりをめざします。

- ・ 教職員を雑務から解放する
 教職員が本務に集中できるよう改善を図る
- ・ 校長のリーダーシップ、雑務について（【2】 も同じ）
 校長・教員の能力と人事改革（若手登用、自己評価、研修等、内部人材の活用制度をどうするか）（【3】 だけでは不十分）
- ・ もう少し説明がほしい。

かわさき教育プラン中間報告検討素案に対する主なご意見

【3】教職員の力量形成と向上をめざして

全体的に

- ・ 教育行政部門の学校評価の項でも書きましたが、研修プログラムについてライフステージにあった計画的な研修として見直しを図る際に現状の研修プログラムについて評価すると思われませんが、実践的課題に応える研修を継続的に実施できるようにするため、再編の方向性に日常的な研修プログラムの評価の仕組みを組込むことが必要だと思えます。また、その評価については市民に公表する必要もあると考えます。例えば、教育委員会のホームページ等で毎年計画される研修プログラムとその実施結果（参加者等）公開することが考えられるのではないのでしょうか。
- ・ 「～の力量形成と向上をめざして」
「と」が入っていると違和感がある。

管理職・教職員の在り方の見直しを図ります。

- ・ 「学校経営の一躍を担っている」
「学校経営の一翼を担っている」

実践的な学校支援体制づくりを進めます。

- ・ 「更に、将来的には教育課程研究センター、研究・研修センター、教育相談センター、特別支援教育(障害児教育)センターとしての機能を強化し」
「更に、将来的には教育課程研究センター、特別支援教育(障害児教育)センターなど、時代のニーズに合った機能を強化し」

研修プログラムの再編を進めます。

【4】学校・家庭・地域の子育ての支援体制づくりをめざして

学校のグランド・デザインと内部評価・外部評価の取り組みを進めます。

- ・ 「～の子育ての支援体制づくり～」といういい方は違和感がある。
- ・ 教育行政の学校評価の部分とかなり重なる項目だと思えますが、どのような点が異なるのか私なりに整理してみました。

教育行政としては、学校評価の方法を研究したり、学校評価を実施するために必要な新たな仕組みづくりやマンパワーの適切な配置について論じ、全市的な教育行政の施策展開に必要な評価について考えるものと思われま

一方、学校教育としては、教育現場に近い学校評価の場面を想定した日常的な課題に対応するための評価ではないかと考えます。そもそも、学校評価とはよりよい教育環境を子どもたちに提供するために行うものであることだと考えると、その評価は教育環境の迅速な改善につながっていくことが最も望ましいことだと思われま

かわさき教育プラン中間報告検討素案に対する主なご意見

す。そうした意味でも日常的にその時々に応じた評価あるいは反応が学校に伝わり、学校の対応が保護者・地域に伝わる大切ではないかと考えます。そこで、学校教育ではより日常的な家庭・地域・学校との様々な方法によるコミュニケーション促進への取り組みが目指す方向性だと思われます。例えば、通常行われている学校説明会などに加えインターネットによる情報提供や意見交換の場などを設けることが考えられると思われます。

学校と地域コミュニティとの関係づくりを行います。

- ・ 地域コミュニティとの関係づくりについて、もう少し積極的な内容を。
- ・ 「保護者や地域の方々の意見を十分に汲み取りながら」とあるが、地域の意見を吸い上げるためにもう一步踏み込んだ施策がほしい。例えば中学校区地域教育会議は、一応、地域の全ての立場の人が入っていることになっている。こうしたところともっと連携して、ということも考えられないか。
- ・ 地域が学校へだけでなく、学校が地域に何をすべきか、何ができるかの視点も重要
- ・ この項目に入れるべきか迷っていますが、地域で子育てを支えるという視点に立った場合、近年特に注目すべき課題は、安全管理・危機管理の問題だと思われます。地域に開かれた学校を目指すと同時に地域ぐるみでの安全管理・危機管理には一層の対策が必要だと思われます。例えば、全ての学校に警察への直通電話を設けるなど警察との連携を強化する方向性は大切ではないかと思えます。

社会教育改革重点施策(案)について

(1) 改革の視点

- ・ 「他部局」という表現は、「市長部局」という表現のほうがいいのでは？

(2) 改革の方向性

地域に密着した生涯学習支援体制の構築

- ・ 「地域に密着した生涯学習の充実」という題にして、文化財保護の話などもここへいれてはどうか。
- ・ アについては、区のみちづくり活動と連動させるような話も入れたほうがいい。
- ・ イについては、各社会教育施設の、今後の位置づけについても明記する必要がある。(新たな項目をつくる)
- ・ イについては、民間施設や企業との連携の視点も入れる。
- ・ ウについては、のイにある NPO やボランティアの話も含めて、広く市民参加について触れるようにしてはどうか。
- ・ エについては、「アウトリーチ」という言葉は一般的ではないので、分かりやすい

かわさき教育プラン中間報告検討素案に対する主なご意見

表現に変えたほうがいい。

- ・ 関連組織等が結構出てくるはず。各地域レベルで何の組織をコアにしていくのかを明確にしていく必要がある。
- ・ 地域教育会議は、地域の生涯学習の支援とコーディネートの一端を担えるものにしていくべきだと考えているので、それを明確に出していくことはいい。
- ・ 新しく人を配置したり、新しい組織を作ったりしなくても、市民をうまく支援していけば、市民が全て手弁当でできるようになるということをもっと押し出してはどうか？

(2) 全体的に

- ・ 「生涯学習」という言葉と「社会教育」という言葉が混在し、整理されていない印象がある。(改革の視点の中で簡単に触れておいてはどうか)
- ・ 社会教育としての自助・共助・公助の概念とシステムの構築。
- ・ 他行政(文化・青少年・婦人・人権)とのネットワーク及び統一をどうとらえ、どう表現するか。

第1章「川崎市の教育の現況と課題」について

全体を通して

- ・ 全体に、課題や方向性など記述内容の不統一。課題を述べることで良いのでは？
- ・ 文言の整理も必要。
例えば「教職員」-「教師」など、「教職員」で良いのでは？
- ・ 文章表現に気になる箇所
6 P - 学級崩壊の課題等
8 P - 指導力不足教員
9 P - チャレンジ事業のみ金額が入っている点
10 P - 学校評価
15 P - 特別支援教育 川崎の今日までの取組みを実績として表現すべきでは？
21 P - 受益者負担～唐突に出てくるが？
- ・ 生涯学習の領域かどこかで「子どもの学校外活動(青少年地域間交流事業)等」を現況と課題に入れるべきでは？
- ・ 「いきいき懇」以降の取組みを1項目立てて記述すべきでは？(現況と課題の前文等としては？)
- ・ 第1章は「川崎市の教育の現況と課題」についてまとめることとなっていますが、実際に読んでみると、現況と課題の記述が必ずしも明確ではなく、方向性や対策について書かれている部分も多々あります。方向性や対策については後に続く章で記述することであると思われるので、ここでは、現況と課題についてのみ整理し記述された方が構成上好ましいと思われる。全体的に修正が必要な気がしました。

かわさき教育プラン中間報告検討素案に対する主なご意見

全部指摘するには時間がありませんでしたが、例としては以下にあげておきます。

例) 2 ページ 2 教育行政に関する現況と課題 (1) 教育委員会

「今後、地方分権の推進や社会情勢の更なる変化に対応するためには、年齢層の広範化及び広く意見をもとめることを目的として、法律上の努力規定である保護者委員の選任や、地域における特色ある教育に対応するための地域教育委員会的な諮問機関等の設置が求められています。」と本文にあります。これは課題ではなく、課題解決のためのひとつの対策ではないでしょうか。

ここから読み取れる課題とは、< 1 > 川崎市は地域ごとに抱えている教育的課題が異なるため、全市を対象にした現在の教育委員会組織では各地域の社会情勢に対応し、様々な課題を迅速に処理しきれないこと。また、< 2 > 現在の教育委員構成は、実際の義務教育を受けている児童・生徒の保護者世代が含まれていないため、義務教育行政の直接的受益者世代の声が届きにくく、審議結果が必ずしも保護者世代の意志を反映しきれないこと。ということができるのではないのでしょうか。

また、現況を報告する場合、できるだけ正確なデータを記述する方がわかりやすい資料になると思われます。

例) 5 ページ 3 幼児教育・学校教育に関する現況と課題 (3) 児童生徒指導 いわゆる「学級崩壊」

市立小学校の学級崩壊のデータのみ示されていますが、中学校のデータも必要かと思われる。また、学級崩壊は中学校の方が深刻との話もありますので、、

また、この部分では、現況と課題について整理しまとめるわけですが、特に課題に対して対立する論点等が過去に議論されたことがある場合にはそのことを明記していただけたらと思います。

5 (2) 地域の教育力向上を図るネットワークシステムについて

地域教育会議のことしか言及されていないが、これでいいのだろうか。社会教育専門部会の重点施策に出てくるネットワークの話につながるような視点がない。